

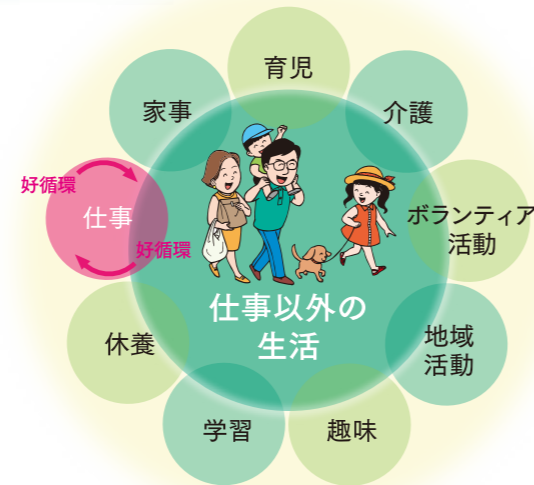
これからの男性の生き方は

働き方を変えてみよう

ワーク・ライフ・バランスってなんだろう？

- ◎女性への子育て支援？
- ◎男性が育児参加すること？
- ◎仕事はそこそこにして、プライベートを充実させること？
- ◎会社に余裕がないので、ワーク・ライフ・バランスとは無縁！

こう思っていますか？



ワーク・ライフ・バランスとは…働き方の変革

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といったライフステージに応じた多様な生き方が選択・実現できることをいいます。

行政や企業が労働時間の見直し、育児・介護休業制度の充実、子育て環境の整備などを行うことが大切ですが、一人ひとりが自分の働き方を見直してみることも必要です。ライフステージに合わせた生き方を選ぶことができれば、男性も女性も安心して働き、個人の生活も楽しめる充実した人生になるでしょう。

ひとつ「働き方」を変えてみよう！
カエル！ ジャパン
Change! JPN

国ではワーク・ライフ・バランスを推進するために「カエル！ ジャパン」キャンペーンを展開しています。キャンペーンにはホームページから参加できますので、ぜひ参加してみましょう。
<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>

気軽に相談を～

サンエールかごしま男性相談

職場での人間関係や家庭の悩みなどに、男性の相談員が面接で相談に応じます。(要予約)

相談日：偶数月第3日曜日 13:00～16:00
奇数月第3土曜日 9:30～12:30
(一人あたり約50分)

場所：サンエールかごしま相談室
(鹿児島市荒田1-4-1)

電話：099-813-0853

～相談員より～

近年は特に、職場や家庭などの対人関係に悩んでいる人、自分の将来の方向性に悩んでいる人が多いようです。鹿児島は特に昔から「強い男性像」が求められてきた土地柄のせいか、家族や友人にさえも自分の弱さを見せられずに、一人で思いつめてしまう傾向があるようです。今のように経済が厳しい社会の中では、悩んだり生きづらさを多少なりとも皆感じています。抱えている問題を相談し、客観的に考えてみることで解決の糸口がみえてくるはず。身近な人に話づらい悩みは、ぜひ相談室を利用してください。誰かに話すことが、解決への一歩になるはず。

事業報告

サンエールフェスタ2014が開催されました。

自分を輝かせるためには相手を輝かせること

「サンエールフェスタ2014」の男女共同参画講演会が2月1日、サンエールかごしまであり、タレントの麻木久仁子さんが「輝いて生きる～わたし色の人生観～」のテーマで、約30年間の芸能生活と自分の生き方について語りました。

麻木さんはこれまでを振り返り「マイナスで内向きの人には誰も寄ってこない。人を引き付けるのは明るさやエネルギー」「自分らしさを発揮するには、周りの人が輝くように手伝うこと。投げるばかり、受けるばかりでは輝けないと気づいた」と語りました。

32歳で結婚し、出産。子育てと仕事を両立できるか心配でしたが、「女性の人生で子どもを産み、育て、仕事をするのは当たり前」という考えのプロデューサーや、「昔は男も女も働き、家族みんなが子どもの面倒を見ていた。子育ては母親一人ではなく、保育所や行政なども含めて本来はみんなでやるべきもの」という評論家の指摘に後押しされ、仕事を続行。「私なりの育て方をして、将来、世間ではなく子どもから通信簿をもらえればいいと思い、子育てと仕事をやってきた」と語りました。

麻木さんは、最後に「自分の良さを発見し、周りの身近な人の素敵なことを発見してあげることで人生を輝かせることができる」と締めくくりました。



男女共同参画講演会で講師の麻木久仁子さん

自分らしさ★キラキラ★再発見ワークショップ

「サンエールフェスタ2014」期間中は親子連れや友達同士などが参加して、さまざまなワークショップでにぎわいました。



中に入って楽しむお菓子の家づくり



子育て中のママもヨガでリフレッシュ



楽器作りとコンサート♪

女性に対する暴力に関する講演会報告

相手のことも自分のことも大切にして対等な関係を



「恋愛は男女が対等であって初めてお互い成長できる」と語る中田慶子さん

女性に対する暴力に関する講演会が11月23日、サンエールかごしまで開かれ、NPO法人DV防止ながさき代表の中田慶子さんが「デートDVってなあに？～お互いがハッピーな関係を築くために～」と題して話しました。

講演ではまず、自分のことを最優先しないと怒ったり、相手の携帯から異性のメールアドレスを消すなど、若い男女のカップル内で起こるデートDVの具体例を寸劇で紹介。

デートDVを防止するためには「相手の心や体、考え方を大事にする」「お互いの時間、友人、家族を尊重する」ことで、相手と対等な関係を築くことが大切で、束縛や支配を恋愛だと勘違いしていないか振り返る必要があるとしました。

また地域や各家庭で取り組むべきこととして「家庭や地域で相手を尊敬・尊重し合う姿を日ごろから子どもに見せる」「男女は平等・対等であることを教える」ことなどの必要性を強調しました。

またDVの子どもへの影響にも言及。「DV環境は児童虐待。適切なケアがなければ次世代にDVを引き継ぐ可能性がある」と指摘しました。

講演の最後に、冒頭のDVパターンの寸劇とは逆の対等パターンの男女のやり取りを参加者に演じてもらい、「恋愛には男女が対等であることが大事というメッセージを伝えていきたい」と締めくくりました。



デートDVについて約50人が熱心に聴き入りました。